

⑫ 公開特許公報(A) 昭62-134791

⑬ Int. Cl.⁴

G 07 G 1/12
G 06 F 15/21

識別記号

3 4 0

庁内整理番号

G-8610-3E
8219-5B

⑭ 公開 昭和62年(1987)6月17日

審査請求 未請求 発明の数 4 (全10頁)

⑮ 発明の名称 クレジット販売処理装置

⑯ 特 願 昭60-275473

⑰ 出 願 昭60(1985)12月7日

⑱ 発 明 者 高 橋 宏 和 静岡県田方郡大仁町大仁570番地 東京電気株式会社大仁工場内
⑱ 発 明 者 大 沼 実 静岡県田方郡大仁町大仁570番地 東京電気株式会社大仁工場内
⑱ 発 明 者 島 崎 準 一 郎 静岡県田方郡大仁町大仁570番地 東京電気株式会社大仁工場内
⑱ 発 明 者 深 澤 收 東京都中央区日本橋本町2丁目4番地 テック電子株式会社本社事務所内
⑲ 出 願 人 東京電気株式会社 東京都目黒区中目黒2丁目6番13号
⑳ 代 理 人 弁理士 鈴江 武彦 外2名

明 細 書

1. 発明の名称

クレジット販売処理装置

2. 特許請求の範囲

(1) クレジットカードに記憶されている会員番号、クレジット会社などの情報を読込むカードリーダーと、売上金額を入力する入力部と、クレジット会社毎のロアリミット金額を設定した会社固有テーブルと、クレジット販売情報を格納するタンキングテーブルと、前記カードリーダーによってクレジットカードの情報を読込み、かつ前記入力部から売上金額の入力があるとその売上金額を前記会社固有テーブルの対応するクレジット会社のロアリミット金額と比較する手段と、この比較手段による比較の結果、売上金額がロアリミット金額以上のときはクレジット販売情報を情報を収集する対応するセンターへ伝送し、かつ売上金額がロアリミット金額未満のときはクレジット販売情報を前記タンキングテーブルに格納する手段と、この手段によってクレジット販売情報がタンキングテー

ブルに格納されるときそのタンキングテーブルに格納されているそのクレジット販売情報のクレジット会社に対応するクレジット販売情報の数をカウントし、そのカウント数が予め設定した所定数に達すると対応するセンターへ伝送する手段とを具備してなることを特徴とするクレジット販売処理装置。

(2) クレジットカードに記憶されている会員番号、クレジット会社などの情報を読込むカードリーダーと、売上金額を入力する入力部と、クレジット会社毎のロアリミット金額を設定した会社固有テーブルと、クレジット販売情報を格納するタンキングテーブルと、前記カードリーダーによってクレジットカードの情報を読込み、かつ前記入力部から売上金額の入力があるとその売上金額を前記会社固有テーブルの対応するクレジット会社のロアリミット金額と比較する手段と、この比較手段による比較の結果、売上金額がロアリミット金額以上のときはクレジット販売情報を情報を収集する対応するセンターへ伝送し、かつ売上金額がロアリ

ミット金額未満のときはクレジット販売情報を前記タンキングテーブルに格納する手段と、情報の伝送を指示する信号の入力により前記タンキングテーブルに格納されている同一クレジット会社のクレジット販売情報の数をカウントし、そのカウント数が予め設定した所定数に達したクレジット会社があるとその会社のクレジット販売情報を全て対応するセンターへ伝送する手段とを具備してなることを特徴とするクレジット販売処理装置。

(3) クレジットカードに記憶されている会員番号、クレジット会社などの情報を読込むカードリーダと、売上金額を入力する入力部と、クレジット会社毎のロアリミット金額を設定した会社固有テーブルと、クレジット販売情報を格納するタンキングテーブルと、前記カードリーダによってクレジットカードの情報を読込み、かつ前記入力部から売上金額の入力があるとその売上金額を前記会社固有テーブルの対応するクレジット会社のロアリミット金額と比較する手段と、この比較手段による比較の結果、売上金額がロアリミット金額以上

のときはクレジット販売情報を情報を収集する対応するセンターへ伝送し、かつ売上金額がロアリミット金額未満のときはクレジット販売情報を前記タンキングテーブルに格納する手段と、この手段によってクレジット販売情報がタンキングテーブルに格納されるときそのタンキングテーブルに格納されているそのクレジット販売情報のクレジット会社に対応するクレジット販売情報の数をカウントし、そのカウント数が予め設定した所定数に達するとそのクレジット会社をメモリに記憶させる手段と、情報の伝送を指示する信号の入力により前記メモリに記憶されているクレジット会社のクレジット販売情報を前記タンキングテーブルから読み出して対応するセンターへ伝送する手段を具備してなることを特徴とするクレジット販売処理装置。

(4) クレジットカードに記憶されている会員番号、クレジット会社などの情報を読込むカードリーダと、売上金額を入力する入力部と、クレジット会社毎のロアリミット金額を設定した会社固有テ-

ブルと、クレジット販売情報を格納するタンキングテーブルと、前記カードリーダによってクレジットカードの情報を読込み、かつ前記入力部から売上金額の入力があるとその売上金額を前記会社固有テーブルの対応するクレジット会社のロアリミット金額と比較する手段と、この比較手段による比較の結果、売上金額がロアリミット金額以上のときはクレジット販売情報を情報を収集する対応するセンターへ伝送し、かつ売上金額がロアリミット金額未満のときはクレジット販売情報を前記タンキングテーブルに格納する手段と、この手段によってクレジット販売情報がタンキングテーブルに格納されるときそのタンキングテーブルに格納されているそのクレジット販売情報のクレジット会社に対応するクレジット販売情報の数をカウントし、そのカウント数が予め設定した所定数に達するとそのクレジット会社をメモリに記憶させる手段と、所定数に達したクレジット会社が発生したことを表示する表示器と、情報の伝送を指示する信号の入力により前記メモリに記憶されて

いるクレジット会社のクレジット販売情報を前記タンキングテーブルから読み出して対応するセンターへ伝送する手段を具備してなることを特徴とするクレジット販売処理装置。

3. 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

この発明はクレジットカードを利用して販売処理を行なうクレジット販売処理装置に関する。

〔従来の技術〕

従来、クレジット販売処理装置としてはカードリーダでクレジットカードに記憶されている会員番号やクレジット会社コードや業種コードなどを読取り、この状態で売上金額をキー入力することによって販売処理が開始され、先ず売上金額がそのカードを発行しているクレジット会社のロアリミット金額（端末機でタンキングすることができずセンターへ直ちに伝送しなければならない最低金額）未満か否かをチェックし、ロアリミット金額以上であれば直ちにセンターのホストコンピュータへ伝送し、またロアリミット金額未満であれ

ば伝送せずに内部に設けられたタンキングテーブルに格納するようにしている。従ってタンキングテーブルには所定のクレジット会社のロアリミット未満のクレジット販売情報が混在して格納されている。そしてキー入力を行なって送信のトリガーをかけることによりタンキングテーブルに格納されている全てのデータが各クレジット会社毎にその会社のセンターへ伝送されるようになっていた。

【発明が解決しようとする問題点】

しかしながらこのようにタンキングテーブルに格納されている全てのクレジット販売情報を各クレジット会社別に伝送したのでは伝送に多大な時間がかかり、その間クレジット販売の登録ができなくなり、クレジット販売の登録処理に支障を来す問題があった。

この発明はこのような問題を解決するために為されたもので、タンキングテーブルに格納された所定のクレジット会社のクレジット販売情報のうち情報数が所定数に達したクレジット会社がある

とそのクレジット会社のクレジット販売情報のみを自動的に伝送することにより、伝送を短時間で終了させることができクレジット販売の登録処理に支障を来さず成れなく、しかもクレジット販売情報を伝送するための操作を不要にできるクレジット販売処理装置を提供することを目的とする。

また、この発明はクレジット販売情報の伝送タイミングをキー入力などの外部トリガーによって任意決めることができるクレジット販売処理装置を提供することを目的とする。

さらにこの発明はタンキングテーブルに格納されたクレジット販売情報の数が所定数に達したクレジット会社が発生したときにはそれを知らせることができ作業者を向上させるクレジット販売処理装置を提供することを目的とする。

【問題点を解決するための手段】

この発明は、クレジットカードに記憶されている会員番号、クレジット会社などの情報を読込むカードリーダーと、売上金額を入力する入力部と、

クレジット会社毎のロアリミット金額を設定した会社固有テーブルと、クレジット販売情報を格納するタンキングテーブルと、カードリーダーによってクレジットカードの情報を読込み、かつ入力部から売上金額の入力があるとその売上金額を会社固有テーブルの対応するクレジット会社のロアリミット金額と比較する手段と、この比較手段による比較の結果、売上金額がロアリミット金額以上のときはクレジット販売情報を情報を収集する対応するセンターへ伝送し、かつ売上金額がロアリミット金額未満のときはクレジット販売情報をタンキングテーブルに格納する手段と、この手段によってクレジット販売情報がタンキングテーブルに格納されると、そのタンキングテーブルに格納されているそのクレジット販売情報のクレジット会社に対応するクレジット販売情報の数をカウントし、そのカウント数が予め設定した所定数に達すると対応するセンターへ伝送する手段を設けたものである。

またこの発明は、情報の伝送を指示する信号の

入力によりタンキングテーブルに格納されている同一クレジット会社のクレジット販売情報の数をカウントし、そのカウント数が予め設定した所定数に達したクレジット会社があるとその会社のクレジット販売情報を全て対応するセンターへ伝送する手段を設けたものである。

またこの発明は、クレジット販売情報がタンキングテーブルに格納されるときのタンキングテーブルに格納されているそのクレジット販売情報のクレジット会社のクレジット販売情報の数をカウントし、そのカウント数が予め設定した所定数に達するとそのクレジット会社をメモリに記憶させる手段と、情報の伝送を指示する信号の入力によりメモリに記憶されているクレジット会社のクレジット販売情報をタンキングテーブルから読み出して対応するセンターへ伝送する手段を設けたものである。

さらにこの発明は、所定数に達したクレジット会社が発生したことを表示する表示器を設けたものである。

【作用】

このような構成の本発明においては、クレジット販売情報をタンキングテーブルに格納するときそのクレジット販売情報の対象となるクレジット会社のクレジット販売情報がタンキングテーブルにいくつ格納されているかをカウントし、その情報数が予め設定された所定数に達していればそのクレジット会社のクレジット販売情報をタンキングテーブルから全て読み出して対応するセンターへ伝送する。すなわち、所定数に達したクレジット会社のクレジット販売情報のみを伝送し、その他のクレジット会社のクレジット販売情報は伝送しない。

また、この発明においては情報をセンターへ伝送指示する信号の入力を行なったときタンキングテーブルから所定数に達したクレジット会社があるか否かをチェックし、あればそのクレジット会社のクレジット販売情報のみを全て読み出して対応するセンターへ伝送する。

またこの発明においてはタンキングテーブルに

対する格納数が所定数に達したクレジット会社が発生するとそのクレジット会社をメモリに記憶させ、情報の伝送を指示する信号の入力があつたときメモリに記憶されているクレジット会社があればそのクレジット会社のクレジット販売情報をタンキングテーブルから読み出して対応するセンターへ伝送する。

さらにこの発明においてはタンキングテーブルに対する格納数が所定数に達したクレジット会社が発生するとそのことを表示によって知らせようとしている。

【実施例】

以下、この発明の一実施例を図面を参照して説明する。

第1図において1はクレジット販売装置本体、2はこの装置本体1にコード3を介して接続された本入直読用暗証パッドである。前記装置本体1は電話回線4を介してセンターのホストコンピュータ5とオンライン接続されている。

前記クレジット販売処理装置本体1の上面部に

はキーボード6、文字表示可能な表示器7、「登録」「休止」「設定」の各業務モードを指定する簡式のコントロールスイッチ8、クレジットカードを読込むためのスライด์溝9、プリンタ10が設けられている。

前記暗証パッド2にはキーボード11及び表示器12が設けられている。

前記装置本体1のキーボード6には第2図に示すように売上キー21、現金キー22、取消高品キー23などの業務キーA、一括キー24、分割キー25などの支払区分キーB、「00」「0」「1」～「9」の数字キー26、その他訂正キー27、一括送信キー28、ダイヤルキー29、終了実行キー30、セレクトキー31などのファンクションキーCが設けられている。

前記暗証パッド2のキーボード11には第3図に示すように「0」「1」～「9」の数字キー32、「C」のクリアキー33などのキーの他に支払区分の表示素子34、一括の表示素子35、暗証の表示素子36などの表示素子が設けられて

いる。

第4図は回路構成のブロック図で、41は各部の制御中枢を司るCPU（中央処理装置）、42は前記CPU41が各部を制御するための基本的プログラムが格納されたROM（リード・オンリー・メモリ）、43は業務処理のためのプログラムやデータ処理のための各種メモリが形成されたRAM（ランダム・アクセス・メモリ）である。前記CPU41とROM42及びRAM43とはアドレスバスラインAL、データバスラインDL及びコントロールラインCLによって接続されている。

44は時計LSIからなる時計回路、45は前記コントロールスイッチ8からの信号を入力するI/Oポート、46は前記スライด์溝9をスライドするクレジットカードから情報を読取るカードリーダー47からの情報を入力するI/Oポート、48は前記キーボード6からのキー信号を入力するキーボードインターフェース、49は前記表示器7に表示データを出力制御する表示インターフ

ューズ、50は前記プリンタ10にプリントデータを出力制御するプリンタインターフェース、

51は前記暗証パッド2のキーボード11からのキー信号を入力するとともに、表示器12に表示データを出力制御するパッドインターフェース、52は前記ホストコンピュータ5と電話回線4を介して情報の送受制御を行なうオンライン伝送装置である。

前記CPU41はこれら各部44、45、46、48、49、50、51、52とデータバスラインDL、コントロールラインCLによって接続されている。

前記RAM43には第5図に示すように業務処理プログラムを格納するエリア61、各種フラグを設けたエリア62、配下の各テーブル項目、レンジス、容量を管理するインデックステーブル63、各クレジット会社毎に独自の仕様を設定した会社固有テーブル64、加盟店名、電話番号等を設定した加盟店テーブル65、CAT端末として各社共通な項目を設定した保守テーブル66、

らなるクレジット販売データ格納メモリ721及びタンキング件数をカウントするのに使用されるタンキング件数カウンタ722を設けている。

前記カードリーダー47によって読込まれるクレジットカードには例えば第7図に示すように会員番号N₁、業種コードN₂、企業コードN₃などによって構成される情報が記憶されている。

前記RAM43の会社固有テーブル64には例えば第8図に示すように識別子P₁、会社コードP₂、会社固有印字データP₃、暗証チェックコードP₄、売上オンラインローリミットP₅、会員番号印字範囲P₆などからなるクレジット会社固有のデータが各クレジット会社毎に設定されている。

前記CPU41は前記コントロールスイッチ8で登録モードが指定されているときに前記RAM43の業務処理プログラム61によって第9図で示す処理を行なう。すなわち、業務キーAの売上キー21のキー入力があると、表示器7にメッセージ「カードのリーダー」を表示する。この状態で

前記表示器7に表示する各種メッセージを設定したメッセージテーブル67、全てのキーのレイアウトをユーザ毎に設定するためのキー機能テーブル68、通信上の使用符号を規定した通信用キャラクターテーブル69、受信テキストをどの出力機器に出力するか規定した出力機器指定テーブル70、前記暗証パッド2の全てのキーのレイアウトを規定したキーパッド用キー機能テーブル71、ローアリミット金額未達のクレジット販売情報を格納するタンキングテーブル72、各社毎の売上及び返品/取消の件数・金額を記憶する集計テーブル73、各種データを一時格納するのに使用されるワーキングメモリ74、前記タンキングテーブル72の情報を伝送するときにその情報を一時格納するタンキング送出メモリ75などが設けられている。

前記タンキングテーブル72には第6図の(a)に示すようにクレジット会社コードを格納するエリアM₁と売上商品コード(売上金額、企業コード、会員番号等を含む)を格納するエリアM₂が

カードリーダー47によるクレジットカードの読込みが終了するとその読込んだクレジットカード情報をワーキングメモリ74にセーブする。そして表示器7にメッセージ「アンショウニョウリョク」を表示させる。この状態で暗証パッド2のキーボード11から顧客の暗証番号の入力があるとその暗証番号をワーキングメモリ74にセーブする。

この状態で次にキーボード5から売上金額の入力があるとその売上金額をワーキングメモリ74にセーブして表示器7にメッセージ「シハライクン」を表示する。なお、このとき売上金額以外のデータが入力されるとエラー処理する。この状態でキーボード6の支払区分キーBのいずれかが操作されるとRAM43の各種フラグ62における対応する支払区分フラグをセットする。なお、このとき支払区分キーB以外のキー信号が入力されるとエラー処理する。

この状態で終了実行キー30のキー入力があると、ワーキングメモリ74にセーブされている売上金額と会社固有テーブル64に設定されている

対応するクレジット会社の売上オンラインロアリミット金額とを比較し、売上金額がロアリミット金額未満になっているか否かをチェックする。このとき売上金額がロアリミット金額以上であれば会員番号、企業コード、売上金額、支払区分等からなるクレジット販売情報をオンライン伝送装置52を介して対応するクレジット会社のセンターにあるホストコンピュータ5へ伝送する。そしてホストコンピュータ5からの応答メッセージがあるとそのメッセージを表示器7で表示するとともにプリンタ10でプリントアウトする。また、売上金額がロアリミット金額未満であればタンキング処理を行ない、その結果を表示器7に表示するとともにプリンタ10でプリントアウトする。

前記タンキング処理は第10図に示すように例えばクレジット会社Aのタンキングデータ、すなわちクレジット販売情報をタンキングテーブル72に格納するときその情報とすでにタンキングテーブル72に格納されているクレジット会社Aのクレジット販売データの件数をカウンタ722

によってカウントする。そして情報の件数が例えば20になればクレジット会社Aのクレジット販売情報を全てセンターのホストコンピュータ5へ伝送する。また情報の件数が20に達していなければそのクレジット販売情報をタンキングテーブル72のクレジット販売データ格納メモリ721に格納する。

このような構成の実施例においては装置本体1のキーボード8から売上キー21のキー番号を入力した状態でカードリーダー47によって顧客から預かったクレジットカードを読込ませ、かつ顧客の暗証パッド2を手紙してその顧客の暗証番号をキーボード11から入力してもらい、さらに装置本体1のキーボード8において顧客の売上金額を入力しさらに支払区分を指定することによってクレジット販売情報の登録が行われる。そしてこのとき入力された売上金額が会社固有テーブル54に設定されている対応するクレジット会社のロアリミット金額と比較される。もし売上金額がロアリミット金額以上であれば今登録されたクレ

ジット販売情報は直ちにセンターのホストコンピュータ5へ伝送される。また売上金額がロアリミット金額未満であればタンキングテーブル72内がサーチされそのテーブル72に格納されている対応するクレジット会社のクレジット販売情報に今回の情報を加算した合計件数がタンキング件数カウンタ722によってカウントされる。その結果タンキング件数が「20件」に達していればそのクレジット会社のクレジット販売情報の全てがそのクレジット会社の情報を収集するセンターのホストコンピュータ5へ伝送される。また20件に達していなければ今回のクレジット販売情報はタンキングテーブル72に格納される。

このようにタンキングテーブル72に格納される同一のクレジット会社のクレジット販売情報の件数が所定数である「20」になったときそのクレジット会社のクレジット販売情報のみがセンターへ伝送されるので、一回に伝送される情報量は1つのクレジット会社の所定数の情報のみであり、伝送に要する時間は従来に比べて極めて短時間で

済む。従って情報の伝送によってクレジット登録業務に大きな支障を与える虞はない。しかも伝送は情報が所定数、例えば「20件」に達したとき自動的に行われるので、オペレータの伝送のタイミングを気にする必要がなく作業性を向上できる。

次にこの発明の他の実施例を図面を参照して説明する。なお、この他の実施例は前記実施例に対してタンキング処理やタンキングテーブルの情報の伝送の方法など一部異なるがその他は基本的に前記実施例と同一なので要部のみを述べる。

第11図に示すものは前記実施例とはCPU41のタンキング処理が異なり、またその処理のためにタンキングテーブル72に第12図に示すタンキングオーバクレジット会社登録エリア723を設ける。

この実施例ではタンキングテーブル72のクレジット販売データ格納メモリ721にクレジット販売情報を格納するとそのテーブル72に格納されているその格納した情報のクレジット会社に対

応するクレジット販売情報の件数をタンキング件数カウンタ722でカウントする。そしてタンキングされている件数が所定数、例えば「20件」になるとそのクレジット会社のコードをタンキングオーバークレジット会社登録エリア723に格納する。そして「20件」に達したクレジット会社が発生したことを表示器7に表示させる。

またCPU41は第13図に示すように情報の伝送を指示するための信号を入力するキー操作がキーボード6で行われると、タンキングオーバークレジット会社登録エリア723をサーチし、そのエリアにクレジット会社のコードがセットされているか否かをチェックする。そしてセットされているか否かのチェックされているクレジット会社に対応するクレジット販売情報をタンキングテーブル72から読み出してセンターへ伝送する。この伝送が終了するとタンキングオーバークレジット会社登録エリア723にセットされているそのクレジット会社のコードをクリアする。そしてこの処理をタンキングオーバークレジット会社登録エリア

723にクレジット会社コードがセットされている限りくり返し行ない、その登録エリア723が全てクリアされると終了する。

このような構成の実施例ではタンキングテーブル72に格納されたクレジット販売情報の数が「20件」に達した会社が発生してもその時点で伝送するのではなく、それを先ずタンキングオーバークレジット会社登録エリア723に記憶し、その後キーボード6において例えば一括送信キー28などとせ情報を伝送指示するためのキー操作があるとその登録エリア723をサーチしてセットされているクレジット会社があればそのクレジット会社のクレジット販売情報をタンキングテーブル72から読み出してセンターへ伝送するようにしているので、例えばクレジット登録の比較的時間なときに情報の伝送を行なうことができる。しかもタンキングテーブル72に格納されているクレジット販売情報全てではなく、タンキングオーバークレジット会社登録エリア723にセットされているクレジット会社のみの情報であるので、この

ものにおいても前記実施例と同様に情報の伝送を短時間で済ませることができクレジット登録業務に大きな支障を与える虞はない。また、クレジット販売情報の件数が「20件」に達した会社が発生したときにはそれを知らせることができるので、オペレータはどのタイミングで情報を伝送するかを事前に決めることができこの点でも作業性を向上できる。

また、第14図に示すものはさらに別の実施例におけるタンキング処理を示すもので、これはキーボード6において情報の伝送を指示するキー入力があったときにタンキングテーブル72をサーチするようにしている。このサーチは先ずクレジット会社コードリードポイントをタンキングデータ、すなわちタンキングテーブル72に格納されているクレジット販売情報の先頭にセットする。そしてポイントに従ってエリアM₁からクレジット会社コードを読取る。続いてタンキング件数カウンタ722をクリアし、タンキングデータリードポイントを読みつづきエリアM₁からクレジット

会社コードを読取り、クレジット会社コードリードポイントで示すクレジット会社コードと一致するコードがあるか否かをチェックする。そして一致するコードがあればタンキング件数カウンタ722を+1する。

こうしてタンキングテーブル72のクレジット販売データ格納メモリ721に格納されている全ての情報についてチェックし終わるとカウンタ722のカウント値が「20」以上になっているか否かをチェックし、「20」以上であれば対応するセンターへそのクレジット会社のクレジット販売情報を伝送する。また「20」未満であればそのままとする。そしてこの処理をクレジット会社コードリードポイントをインクリメントしつつくり返し行ない全てのクレジット会社コードについてチェックが終了するとこの処理を終了する。

従ってこの実施例においてもセンターへ伝送される情報は情報件数が「20件」に達しているクレジット会社の情報のみであり、しかもオペレータが伝送タイミングを決めることができるので、

伝送に要する時間は短時間で済み、しかも登録の暇なときに伝送を行なうことができ、クレジット登録業者に大きな支障を与える虞はない。

なお、前記各実施例ではセンターへ伝送するときの情報数を「20件」としたがこれは任意設定できるものである。

【発明の効果】

以上詳述したようにこの発明によれば、タンキングテーブルに格納された複数のクレジット会社のクレジット販売情報のうち情報数が所定数に達したクレジット会社があるとそのクレジット会社のクレジット販売情報のみを自動的に伝送することにより、伝送を短時間で終了させることができ、クレジット販売の登録処理に支障を来さず、或れがなく、しかもクレジット販売情報を伝送するための操作を不要にできるクレジット販売処理装置を提供できるものである。

また、この発明によればクレジット販売情報の伝送タイミングをキー入力などの外部トリガーによって任意決めることができるクレジット販売処

理装置を提供できるものである。

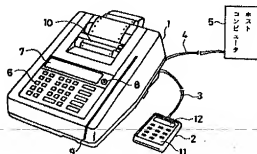
さらにこの発明によればタンキングテーブルに格納されたクレジット販売情報の数が所定数に達したクレジット会社が発生したときにはそれを知らせることができ作業性を向上できるクレジット販売処理装置を提供できるものである。

4. 図面の簡単な説明

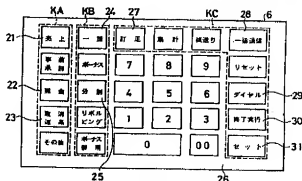
第1図～第10図はこの発明の一実施例を示すもので、第1図は外観を示す斜視図、第2図はクレジット販売装置本体のキーボードのキー配列を示す図、第3図は本人確認用暗証パッドのキーボードのキー配列を示す図、第4図は回路構成を示すブロック図、第5図はRAMの主なメモリ構成を示す図、第6図はタンキングテーブルの構成を示す図、第7図はクレジットカードに記憶されている情報構成を示す図、第8図は会社固有テーブルに設定されているクレジット会社の情報構成を示す図、第9図はCPUによるクレジット登録の業務処理を示す流れ図、第10図はCPUによるタンキング処理を示す流れ図、第11図～第13

図はこの発明の他の実施例を示すもので、第11図はCPUによるタンキング処理を示す流れ図、第12図はタンキングテーブルに設けられるタンキングオーバークレジット会社登録エリアの構成を示す図、第13図はCPUによるタンキングテーブルの情報伝送処理を示す流れ図、第14図はさらに別の実施例におけるCPUによるタンキングテーブルの情報伝送処理を示す流れ図である。

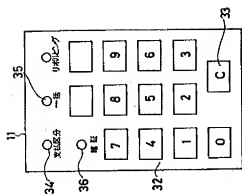
1…クレジット販売装置本体、5…ホストコンピュータ、6…キーボード、7…表示器、41…CPU（中央処理装置）、42…ROM（リード・オンリー・メモリ）、43…RAM（ランダム・アクセス・メモリ）、47…カードリーダー、51…業務処理プログラムを格納するエリア、54…会社固有テーブル、72…タンキングテーブル、721…クレジット販売データ格納メモリ、722…タンキング件数カウンタ。



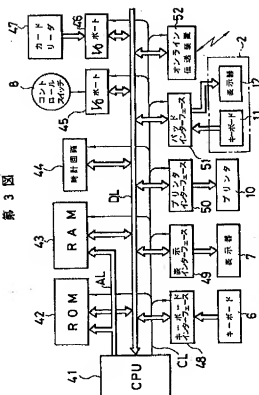
第1図



第2図



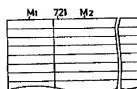
第 3 図



第 4 図

高速処理プログラム	61
各種フラグ	62
インデックステーブル	63
会社関係テーブル	64
加算機テーブル	65
保存テーブル	66
マッセルテーブル	67
キーボードテーブル	68
演算用キャラクターテーブル	69
出力制御用文字テーブル	70
キーボード用キーコードテーブル	71
タンキングテーブル	72
印刷テーブル	73
ワーキングメモリー	74
タンキング退出メモリー	75

第 5 図



(a)



(b)

第 6 図

N1	N2	N3
会社番号	業務コード	支店コード

第 7 図

P1	P2	P3	P4	P5	P6
識別子	会社コード	会社関係	会社関係	会社関係	会社関係

第 8 図

